

＜書 評＞

砂原茂一 編（国立療養所東京病院）

リハビリテーション医学全書 21

呼吸障害・循環障害・老人

荻島秀男（ペインリハビリテーションクリニック 高島平整形外科）

我国は確実に世界でも 1, 2 を争う長寿国になっているがこれは乳幼児死亡率の劇的な減少と老人医療の充実に負うところが大きい。長寿国が幸せであるかどうかは別として疾病構造の変化は著明でありその意味でこのリハビリテーション医学全書の 21 巻（砂原茂一編：呼吸障害・循環障害・老人）はタイミング良く出版されたと歓迎されるであろう。この全集の企画の段階で「老人」という項目はあがっていなかったと記憶しているがはじめの企画より 10 年以上の年月を経ているのでその間に老人問題の比重が高まり追加されたものとする。

米国のリハビリテーション専門医のレジデント研修コースでは循環器疾患の修練が必要とされている。Cardiologist と Physiatist のチームによる Cardiac rehabilitation がプログラムとして組み込まれていない施設

は大学病院であってもボードの研修施設の認定をとり消されているのが実状である。その位リハビリテーション医学の分野で呼吸器疾患と循環器疾患のリハビリテーションについての知識を要求される時代になっている。この巻はそのような意味でリハビリテーション専門医制度が発足した我国でさっそく参考書として使える手ごろな本である。

呼吸器の解剖・生理・運動学が第 1 章で取上げられ、急性・慢性呼吸器疾患についての知識が充分得られる内容である。我国でのトータルリハビリテーションのパイオニアともいえる肺結核のリハビリテーションにかなりのページがさかれているが歴史的な疾患でもあり現在でも老人に難治性のものが多く興味深い内容である。体位排痰法は全国的にまだ遅れている分野でもあるが inhalation therapist の必要性を訴えている。第

2 章心臓病では評価と運動負荷についての説明が加えられていて今後我国でも全国的にこの種の医療が展開されるであろう。第 3 章の末梢循環障害では基礎的治療と運動療法まで含まれていてやはりリハビリテーション医学の重要な一分野である。

第 4 章の老人のリハビリテーションはこの巻でいささか唐突な感じをまぬかれないが力作である。特にこの章の長期臥床による障害の項は医学生やナースには是非読んで戴き、リハビリテーション医学の協力者理解者になって戴きたい。

我国のリハビリテーション医師の指針にも呼吸器、循環器疾患のリハビリテーションが含まれる事になったし今後の疾病構造の変化を予測すればするほどこの書の内容に重みが増して来る。実際に現場で実地を充分担当しておられる執筆陣によるものだけに呼吸器、循環器のリハビリテーションを勉強するに関しては絶好の書でありリハビリテーション医学を担当するチームの方々に是非読んで参考にして戴きたい次第である。

（A 5，頁 378，1983，¥5,300，
医歯薬出版刊）